

製品・サービス動向-国内

■Sansan：名刺アプリ「Eight」、QR名刺交換でオンライン会議中のコミュニケーションが円滑に

(PRTIMES:5月7日)

Sansan 株式会社 (<https://jp.corp-sansan.com/>) (東京都渋谷区) が提供する名刺アプリ「Eight」 (<https://8card.net/>) は、オンライン会議で名刺交換をスムーズに行うことができる新機能「QR名刺交換」を提供する。



QR名刺交換 画面例 (Sansan)

同社によると、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、オンラインでの商談や打ち合わせの機会が急増しているが、従来通りの名刺交換ができないために、相手の役職・部署などが曖昧になり会議がスムーズにいかない、アイスブレイクしづらい、コンタクト情報を管理しきれず困っているなど、さまざまな課題が浮き彫りになっているという。

そこで、QR名刺交換をオンライン会議中に行うと、対面で名刺交換を行う時と同様に、双方の正確な氏名・役職などがわかり、オンライン中のコミュニケーションが円滑になるという。

今回発表された QR 名刺交換は、同社が提供している、名刺を起点としたビジネスネットワークである「Eight」（国内最大の 250 万人を超えるユーザ）を使って行う。

PC 版の Eight の「オンライン名刺交換」画面より、QR コード化する名刺を確認し、オンライン会議で使用するバーチャル背景を選択すると、自動的に QR コードが組み込まれたバーチャル背景が作成される。そしてお互いに QR コードを撮影するだけで、Eight ユーザ同士であれば相手の名刺情報が連絡先として Eight に登録される。また相手が Eight ユーザでなくても、自分の Eight プロフィールを閲覧してもらうことができる。なお、作成した QR 名刺交換用バーチャル背景は、オンライン会議ツール内で背景として設定する形になる。

Sansan は、「出会いからイノベーションを生み出す」をミッションとして掲げ、法人向けクラウド名刺管理サービス「Sansan」および個人向け名刺アプリ「Eight」を開発・提供している。名刺管理を起点としたビジネスプラットフォームとして活用できるサービスを国内外で提供している。

■サテライトオフィス：高機能チャット&テレビ会議ツール「Lark Suite」を提供開始、ワンプラットフォームでさまざまなツールが使える、テレビ会議は最大 100 人まで対応

(@Press:5月7日)

株式会社サテライトオフィス (<https://www.sateraito.jp/>) (東京都江東区) は、高

機能チャット&テレビ会議ツール「Lark Suite（ラクスイート）」を提供開始した。

LARK **これだけの機能が無料で使えます**

ご提供するLark Suiteには以下の**全て**機能が含まれています

チャット 高機能なチャット機能です。使いやすく、とてもパワフルです。(例:スレッド型チャット、リッチテキスト等...)	テレビ会議(録画機能付) 非常に安定した高機能なテレビ会議システムです。100人まで同時参加でき画面共有、録画、マッシュアップが可能	カレンダー/施設予約 カレンダー、施設予約が可能です。チャット内でカレンダー予約やカレンダー予約するとチャット通知など連携	クラウド@ファイルサーバ 無償版では200GBのクラウドのファイルサーバ利用が可能です。全文検索(チャット、カレンダー、ファイルの検索)も可能
オンラインドキュメント機能(共同編集) Wordのクラウド版ですが、非常にパワフルです。共同編集が可能です。文書内で、タスク管理や承認機能が実現	オンライン表計算機能(共同編集) Excelのクラウド版的な位置づけ。複数人で、共同編集ができ表計算機能(セルにタスクを入れるとチャットで連絡)	チャットワークフロー(ボット) チャットでワークフローや自動管理などのボット機能を作る事が可能です。	各種アプリとの連携 Lark Suite連携の他、他のクラウドとの連携やシングルサインオンも実現。(例:GoogleカレンダーとLarkカレンダーの同期が可能)

Lark Suite 概要 (サテライトオフィス)

Lark Suite は、チャット/テレビ会議/カレンダー/ファイルサーバ/オンラインドキュメント機能/オンライン表計算機能/アドレス帳/ワークフロー/チャットポットなど、チームコラボレーションに必要なさまざまなツールがひとつのプラットフォームにまとめられているのが大きな特徴。

これらの機能は常時同期しており、ツール間のアクセスも容易。「カレンダー登録するとチャットに連絡」、「チャット画面でカレンダー登録」、「ドキュメント共有するとチャットに連絡」、「チャット画面でカレンダー登録」、「ドキュメント共有するとチャットで連絡」、「ドキュメント内にタスク登録:メンションするとチャットで連絡」などの相互連携が可能になっている。

テレビ会議機能は最大 100 人同時接続が可能で、ストリーミング配信・録画機能、画面共有、オーディオ会議などが行える。また、チャットについては1対1からグループチャット、「いいね!」ボタン、ボイスチャットなど。カレンダー機能では、メンバーのカレンダーを重ねて表示、空き時間調整、Google マップ連携、カレンダーボットなど。ファイルサーバでは最大 200GB 保存可能なクラウドストレージに全文検索、ファイル種類などのカスタム検索も可能になっている。

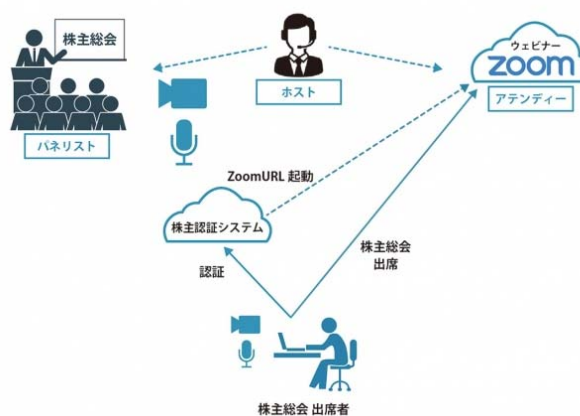
サテライトオフィスは、クラウド環境またはサテラ

イト環境でのビジネス支援に特化したインターネットシステムソリューションベンダー。あらゆるビジネスモデルに最適なソリューションパッケージによりユーザーの立場に立った戦略の企画・提案を行っている。2008年にはGoogle Cloud Partnerとして、Googleに認定された技術をもって、よりユーザー満足度を追求した製品開発・サービス提供を開始。また、「サテライトオフィス・プロジェクト」というプロジェクト体制のもと、「G Suite」や「Office365」、「LINE WORKS」、「Workplace by Facebook」、「Dropbox Business」を使った社内情報システムの導入支援サービス、クラウドコンピューティングのビジネスの可能性を追求している。

■フューチャー：Zoom ビデオウェビナーを活用した「バーチャル株主総会運営支援サービス」の提供を開始、株主認証システムを組み合わせ議決権行使が可能に

(PRTIMES:5月1日)

フューチャー株式会社 (<https://www.future.co.jp/>) (東京都品川区)は、Web 会議システムの Zoom ビデオウェビナーと、フューチャーグループで独自に開発した株主認証システムを組み合わせ「バーチャル株主総会運営支援サービス」の提供を 2020 年 5 月から開始する。



バーチャル株主総会イメージ (フューチャー)

Web 会議システムなどの技術の活用は、新型コロナウイルスの感染リスク低減はもとより、株主総会への参加・出席の機会や選択肢の拡大など株主と企業の双方に利点がある。

バーチャル株主総会運営支援サービスは、フューチャーの経験とノウハウをもとに、フューチャーグループ各社の技術とサービスを付加価値として提供される。株主個人の本人確認を徹底する認証システムはライブリッツ株式会社が独自に開発しており、Zoom ビデオウェビナーのユーザートレーニングやバーチャル株主総会の運営支援などを必要とする顧客はコードキャンプ株式会社がサポートする。

※経済産業省：「ハイブリッド型バーチャル株主総会の実施ガイド」

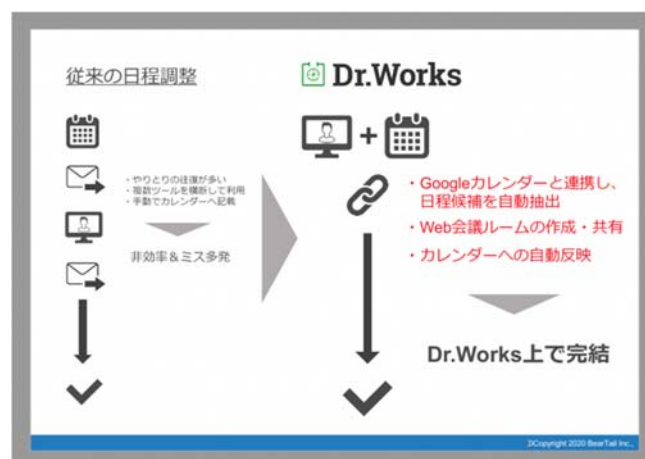
<https://www.meti.go.jp/press/2019/02/20200226001/20200226001.html>

■BearTail：日本発の Web 会議に特化した日程調整ツール「Dr. Works」の事前登録を開始、Zoom との自動連携が可能

(PRTIMES:5月14日)

株式会社 BearTail(<https://beartail.jp/>) (東京都千代田区) は、日本発の Web 会議に特化した日程調整ツール「Dr. Works」の事前登録を5月14日に開始した。

新型コロナウイルスの影響で、商談やミーティングの多くがオンラインで行われるようになったが、オンライン会議を行う際に、(1) 相手側の事情 (OS・ブラウザ・参加人数) に合わせた Web 会議ツールの選択、(2) 会議ルームの作成・URL およびパスワードの共有、(3) カメラ・マイク・シェアスクリーンなどの動作チェック、(4) 接続がうまく行かなかった場合の代替ルームや代替連絡手段の事前共有、といったような煩雑なやりとりが新たに発生しているという。



Dr. Works (BearTail)

Dr. Works は商談やミーティングの日程調整をすると同時に、上記のような煩雑なセッティングを簡単に行うことができるという。具体的には、日程調整と Web 会議ツールの URL 発行を自動的に行ったり、最も安全性の高い方法で会議ルームを作成し、接続不良時の代替手段も事前に用意される。

提供開始は5月下旬を予定している。また、今回発表した日程調整の機能に加え、近年増加するオンライン飲み会、オンラインランチに対応するため、フードデリバリーサービスとの連携を計画している。

■プラネックスコミュニケーションズ：USB 接続フル HD 対応の Web カメラ「USB-CAM01」を発売

(5月1日)

プラネックスコミュニケーションズ株式会社 (<https://www.planex.co.jp/>) (東京都目黒区) は、USB 接続フル HD 対応の Web カメラ「USB-CAM01」を発売する。

USB-CAM01 は、200 万画素 CMOS センサー搭載でフル HD (1920 x 1080) ・最大フレームレート 30fps に対応した Web カメラ。内蔵マイクを搭載。ドライバースoftwareが不要で USB ポートに接続するだけで使える。Windows/Mac OS/Linux に対応。

本体のカメラヘッドは 110 度、クリップスタンドは

180度回転する仕様になっている。またクリップスタンド底部には三脚用のネジがあり、カメラ用の三脚に取り付けることができるようになっている。



USB-CAM01(プラネックスコミュニケーションズ)

本体はディスプレイの上部に取り付けることもできるが、自分を見下ろす映像となりがちだ。または机の上や背景の床などが映像に映ることもありえる。そこで、小型三脚を机に置いてWebカメラを設置すれば高さを自由に換えられるため、視線の高さに合わせたセッティングが可能であるとともに、三脚の位置を変えればカメラとの距離を調整できるため、複数人のミーティングなどでもバランスのよい映像を映すことが可能となる。

カメラヘッドの大きさは、約11.8(W)x3.3(H)x8.5(D)cm。クリップスタンドは約4.3(W)cm。ケーブルは約100cm。重さは約107g(ケーブル含む)。

価格はオープンプライス。5月中旬より販売を開始する。同社では、併せて「コロナに負けるな！」をテーマにコロナ対策情報特設ページ(<https://www.planex.co.jp/products/remotework/>)をオープンした。特設ページでは、店舗やオフィス監視、子供の見守り、Web会議、オンライン授業/飲み会/帰省、自宅からオフィスのファイルサーバにアクセス、自宅からオフィスのネットワーク機器の死活監視・電源再起動などさまざまな課題を解決するための製品情報を提供している。

■サンワサプライ：3倍ズームレンズを搭載した、テレワーク・サテライトオフィスでのテレビ会議に最適なWebカメラを発売

(PRTIMES：5月7日)

サンワサプライ株式会社(<https://www.sanwa.co.jp/>) (岡山市北区)は、3倍ズーム機能を搭載した、3倍ズームレンズ、オートフォーカス機能搭載、テレビ会議に最適なUSB対応Webカメラ「CMS-V50BK」を発売する。標準価格は72,000円(税別)。

ZoomやSkypeなどのテレビ会議を通して顧客とプレゼンや打ち合わせを行う頻度の多い企業やテレワークを導入している企業に最適という。



CMS-V50BK (サンワサプライ)

カメラは3倍ズームレンズを搭載しているため、テレビ会議の際に話し手を映したり、手元にある資料を拡大して映したりする際に便利。映しているものに自動でピントが合うオートフォーカス機能にも対応している。

付属リモコン

(サンワサプライ)

本体にはフルHD対応(1920x1080)のCMOSセンサーを搭載しており、大画面にきれいな映像を出力する。またフレーム

レートは30fpsと動きも滑らかに映し出すことが可能



で細かい動作の確認をしたい場合にも最適という。さらに、広範囲を映す広角 84° のワイドレンズを搭載しており、複数人を映してテレビ会議を行うこともできる。付属のリモコンを使用することで垂直-30° ~ +30°、水平±175° の範囲でカメラの向きを操作することも可能。

本体は USB ケーブルでパソコンとつなぐだけで起動する電源不要の簡単接続となっているため、急な会議でもすぐに準備し、始めることができる。電源補助用の USB コネクタが付いており、パソコンに接続することで電力不足を解消するとしている。

なお、CMS-V50BK は、天井や壁などに取り付けられる金具が付属している。部屋全体を映したい場合などに便利という。またカメラ用三脚穴を持っており、三脚に設置することで、好みの位置にカメラを設置することも可能。ケーブルは長めの 5m のため壁面などパソコンから離れたところでも、ケーブル長に余裕を持たせて設置できる。

ビジネス動向-国内

■アバー・インフォメーションとジャパンメディアシステム：拡販パートナーシップを締結、共同開発・販売などを展開

(PRTIMES:5月7日)

アバー・インフォメーション株式会社 (<https://jp.aver.com/>) (東京都新宿区) と、ジャパンメディアシステム株式会社 (<https://www.jm-s.co.jp/>) (東京都千代田区) は拡販パートナーシップを正式に締結した。

昨今働き方改革に加え事業継続性の確保を目的として、テレワークを導入・実施を検討する企業が増えており、Web 会議に対する需要が高まっているという。こうした状況を踏まえて、高品質で臨場感のある Web 会議環境をより多くのユーザに提供するため、両社の

提供する製品・サービスの強みを生かして、拡販活動を行っていくことになった。



アバー・インフォメーションの Web カメラ
(アバー・インフォメーション)



LiveOn (ジャパンメディアシステム)

今後は、AVer (アバー) ブランドの法人向け Web 会議カメラとジャパンメディアシステムの Web 会議システム「LiveOn」の共同開発やセット販売、無償トライアルの実施。両社共同による Web 会議システムの活用に関するセミナーやイベントの開催などを予定しているという。

アバー・インフォメーションは、世界シェア No.1 を誇る書画カメラを始めとして、充電保管庫 (タブレット・ノート PC 等)、テレビ会議システム、法人向け Web 会議カメラを製造・販売する、台湾発のグローバルメーカー。毎年収益の 30% を超える予算を、研究・開発分野への投資に充てており、厳しい品質管理体制の下、台湾の自社工場から約 100 か国のユーザに向けて製品を提供している。

一方、LiveOn は、ジャパンメディアシステムによる完全自社開発の Web 会議システムで 20 年ほどサービス提供を続けており、7,000 社以上の導入実績を誇る高品質な製品。昨今ではその高いクオリティをベースに、会議・研修以外でも場所や端末を問わずさまざまな用途で利用されている。

ビジネス動向-海外

■Pexip 社：1 億ドル調達を計画しオスロ証券取引所に上場、ロックダウンの中 IPO に向けての難しい交渉を効率的なビデオ会議で実施

(5月14日)

テレビ会議ソリューションを提供する Pexip 社 (<https://www.pexip.com/>) (ノルウェー・オスロー) は、5月14日、PEXIP のシンボルでオスロ証券取引所に上場したと発表。



オスロ証券取引所 Pexip 社 上場日 (Pexip)

Pexip 社としてはこの上場で 1 億ドルの資金調達を実施する計画。「上場開始早々、売り出した株式を上回る買い注文が入った (oversubscribed)。多くの投資家にとってビデオコミュニケーションが最優先事項であることを示している。主にヨーロッパとアメリカを中心とした投資家から投資を受けた状況だ。」(Pexip)

コロナウイルスが蔓延するこの時期多くの企業が IPO を手控える中、Pexip 社はビデオ会議をフルに活用することで IPO を実現した。今回の IPO を実現するに

あたって、世界中の 15 を超える都市の投資家との交渉をビデオ会議で行ったという。上場に向けてタイトなスケジュールの中、さまざまな複雑なアジェンダを柔軟に設定したり議論したり、あるいはぎりぎりのところで修正をかけたというところを行っていたという。

通常はこういった交渉は関係する投資家のところへ実際に出張するなどかなりの時間と労力を要する。しかし、Pexip は IPO に関わる手続きや交渉の 99% をビデオ会議に置き換え、1,700 時間以上 (70 日以上) の移動時間を節約することができたという。しかも、CO2 の削減にもつながった (10 人のノルウェー人が 1 年間に排出する量) としている。

「ビデオ会議による交渉がリアルと同様なインパクトを投資家に与えることができたという良い例だ。ビデオ会議によるミーティングが功を奏し買い注文が上回ったという成果につながった。」(Pexip)

当初は、今年の 1 月と 2 月に投資家とのリアルのミーティングを行う予定を入れていたが、旅行制限に加えロックダウンが行われ、急きょビデオ会議に切り替えることになった。最初は投資家などからの反発もあったが、ほどなくしてビデオ会議での交渉に応じてもらえるようになったという。

「こういったオンラインの環境で IPO へ向けての交渉などを行うことは不可能ではなく、むしろ、金融業界や投資家などにとっても、ロックダウンに関係なく効率的な方法であるということがわかった。」(Pexip)

5月14日株式上場のその日。オスロ証券取引所でのオープニングベルが鳴り響いたころ、同社の社員はビデオ会議を通してオンラインで参加していた。「ビデオ会議があれば上場のオープニングセレモニーへ社員を参加させることが可能になる。当社の価値であるワンチーム (One Team) を体現したひとつの好例ともいえるだろう。ここから当社一丸となって“新たな成長”に向かって進んでいく。」(Pexip)

導入利用動向-国内

■南紀白浜エアポート、ブイキューブ：南紀白浜空港に個室型スマートワークブース「テレキューブ」を設置

(5月11日)

株式会社南紀白浜エアポート (<http://shirahama-airport.jp/>) (和歌山県西牟婁郡) とテレキューブサービス株式会社 (<https://telecube.jp/>) (東京都千代田区) は相互に協力のもと、南紀白浜空港ターミナルビル1階に設置した個室型スマートワークブース「テレキューブ」を2020年5月11日より営業開始する。

昨今、交通混雑の緩和や感染症対策、働き方改革の友好的な手法として普及が進むテレワークだが、和歌山県におけるテレワーク実施率は15.2%(パーソル研究所調べ)にとどまるなど十分に進んでいるとは言えない状況となっている。

そこでこの状況を踏まえ、和歌山県のテレワーク環境の構築を支援すべく、両社は空港ターミナルビル1階にテレキューブを設置し5月11日より営業を開始。多くのビジネスマンや旅行者が行き交う地域拠点である南紀白浜空港内に高質なワークプレイスを新たに提供し、航空機への搭乗前後の時間や外回りなどの隙間時間の有効活用による、テレワーク実施を支援したい考えだ。なお、和歌山県内へのテレキューブ設置は本件が初となるという。



南紀白浜空港に設置されたテレキューブ (テレキューブ)

南紀白浜エアポートは、和歌山県が推進するワー

ケーションの総合コンシェルジュに登録されており、働き方の多様化や感染症拡大によるワーク環境の変化に対応したオフィス環境の整備やワーケーションプログラムの造成・手配を通じて、地域や地域に訪れるビジネスパーソンの生産性の向上と和歌山ワーケーションの発展に取り組んでいる。

サービス等無償提供発表企業

コロナウイルスの影響からテレワークや在宅勤務を行う企業などが増えています。そういった企業などを支援する目的で遠隔会議・ユニファイドコミュニケーション提供会社がサービスなど無償提供を行う動きがとくに2、3月に入ってから活発になっています。

ここでは、CNAレポート・ジャパンが3月15日現在(その後3月31日も追加しています)把握した、無償提供もしくは機能拡張などのプレスリリースを行った提供会社の名前とURL(ホームページもしくは当該ページ)を掲載します。各社期間限定となっています。詳細は各社ホームページまたは直接お問い合わせください。皆様のご参考になればと思います。(順不同)

- 経産省(学びを止めない未来の教室、Zoom 教育関係) : https://www.learning-innovation.go.jp/covid_19/zoom/
- ライフサイズ社(クラウドサービス) <https://pages.get.lifesize.com/remote-work-with-lifesize/>
- インタビューメーカー(Web面接) <https://interview-maker.jp/>
- ドコモシステムズ(Web会議 sMeeting) <https://ddreams.docomo-sys.co.jp/smeeting/>
- RSUPPORT(Web会議 RemoteMeeting など) <https://www.rsupport.com/ja-jp/>
- DialPad(クラウド PBX) <https://www.dialpad.co.jp/>
- アバー・インフォメーション(デモ機など無償貸出し) <https://jp.aver.com/>

- ブイキューブ（V-CUBE ミーティング、営業、教育、医療機関など）<https://jp.vcube.com/>
- ベルフェイス（営業特化 Web 会議）
<https://bell-face.com/>
- プリンストン（クラウド会議サービス BlueJeans）
<https://www.princeton.co.jp/news/2020/03/202003101100.html>
- AloT クラウド（Web 会議）
<https://www.aiotcloud.co.jp/>
- ポリグロットリンク（遠隔通訳サービス、学校向け）
<https://polyglot-link.co.jp/>
- ギンガシステム（LoopGate for PC/Tablet）
<https://ginga-sys.jp/>
- シスコシステムズ（Web 会議 Webex）
https://www.cisco.com/c/m/ja_jp/solutions/collaboration/webex/90days.html
- ネオキャリア（Web 会議 Calling）
<https://www.calling.fun/>
- meet in（Web 会議ミーティング、教育向け）
<https://meet-in.jp/>
- マルジュ（Web 面接 SOKUMEN）
<https://www.maru.jp/sokumen/>
- トラストバンク（自治体専用チャット LoGo）
<https://www.trustbank.co.jp/>
- ビジョン（ビジネス向け SNS ツール JANDI）
<https://vws-biz.com/jandi/>
- StarLeaf/メディアプラス
<https://www.starleaf.jp/>
- 日本アバイア（Avaya Spaces、教育機関・非営利）
（在宅コンタクトセンター）
<https://www.avaya.com/jp/>
- シャープマーケティング（TeleOffice）
<https://www.ideep.com/>
- DMM 英会話（Bellbird ビデオ通話サービス）
<https://eikaiwa.dmm.com/app/meeting>
- Vonage（Vonage Free Conferencing）
<https://freeconferencing.vonage.com/>
- ロゼッタ（遠隔会議上音声翻訳ツール）
<https://www.jukkou.com/lp/onvaku.html>
- ニューロネット（Web 会議 SaasBoard）
<https://www.neuronet.co.jp/>

*5月15日現在で無償提供を終了しているところもあるかもしれません。個別にご確認ください。

PR

■ヤマハ株式会社



ユニファイド
コミュニケーション
スピーカーフォン YVC-200

<https://sound-solution.yamaha.com/products/uc/yvc-200/index>

セミナー・展示会情報

<国内>

■ブイキューブセミナー情報（5月～7月）

「いまさら聞けない Web 会議とテレビ会議の違い 選び方徹底解説セミナー」、「オフィスの「会議室足りない問題」に。スマートワークブース「テレキューブ」体験会」、「テレワーク環境をスムーズに整える秘訣とは？～安心してテレワークするための IT ツールガイド～」など
会場：（Web セミナー）

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事のみ）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、それ以外の業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。皆様の情報収集のひとつとしてご活用いただければ有難いです。

■フェイスブック（遠隔会議&UC トレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter（CNA レポート・ジャパン）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dte-forum）

<http://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

定期レポートバックナンバー

定期レポートのバックナンバー（1999 年～最新号）は下記で閲覧できます。

<http://www.cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

CNAレポート・ジャパン 2020年5月15日号おわり

ホームページ: <http://cnar.jp> お問い合わせ: cnar@cnar.jp